

令和5年度 事業報告

【施設目標について】

令和5年度は、『報・連・相のための環境作り』を目標に、各部署に取り組んでもらいました。施設全体として、まだまだ風通しは十分と言えるレベルに達していませんが、管理者側からコミュニケーションを取ろうとする姿勢は、以前に比べて増えてきたように感じます。

私自身も職員との個別面談を実施し、何点かの課題・要望について対応してきました。引き続きこの面談は定期的の実施し、職場環境の向上に繋がりたいと思います。

【本年度の状況と次年度での取り組み】

令和5年度も退所者が非常に多く、現在も特養の空床を埋めるまでには至っていません。また居宅系事業所の利用者数も、若干の増加は見られますが、同様に定員は埋まっています。地域の人口減少を鑑みれば、この先も同じ状況が続いていくと思われませんが、施設としてできる限りの対策を講じていきます。

まず一点目は、病院や老健との連携の強化です。新規入所者の割合として、病院からの紹介の割合が以前よりも高くなってきています。今までは元気だったが、何かのきっかけで入院し、在宅生活が困難となるケースです。この方々を積極的に受け入れていくために、今後は連携先の範囲を広げるよう、相談員にお願いしています。

二点目は継続となりますが、居宅系サービスの魅力アップです。今のサービス内容に魅力が無いという訳ではなく、同じ内容を続けていては、色褪せてしまうという意味です。職員は常に新しいサービスを考えていますので、それを実現するためのサポートを行っていきます。

令和6年5月

施設長 真下和人